

<沿革>

- 1953年 1月 東京都千代田区にて発足、代表取締役 和田貞次
- 1956年 7月 造園事業部、杉並区上高井戸に事務所移転
- 1967年 6月 海外物件を初受注、アメリカにて日本庭園作庭
- 1973年 1月 株式会社はこねフローリスト設立
- 1973年 4月 パラグアイ国イグアス植林株式会社設立(~2014年)
- 1984年 5月 代表取締役 和田貞次 社団法人日本造園建設業協会会長就任(~1991年5月)
- 1994年 6月 和田新也 代表取締役就任
- 2004年 4月 石川県志賀町 花のミュージアム「フローリィ」運営開始

<主な受賞歴>

- 1998年 10月 国営昭和記念公園日本庭園整備工事 建設大臣賞受賞
- 1999年 7月 中国・昆明世界園芸博覧会出展日本庭園 最優秀賞受賞(総合賞部門)
- 2008年 6月 旧浜離宮庭園潮入の池護岸改修工事 東京都建設局長賞受賞
- 2008年 10月 ふくだ内科・循環器科 屋上庭園
屋上・壁面・特殊緑化技術コンクール 審査委員会特別賞受賞
- 2009年 11月 賃貸共同住宅 CULUM浜田山 2009年度グッドデザイン賞受賞
- 2015年 9月 プロテ横浜高島台 2015年度グッドデザイン賞・2015年度キッズデザイン賞受賞

<主な施工実績>

- 文化・教育施設
 - 国立科学博物館筑波実験植物園/植物園内・研修展示館(茨城/つくば)
 - 花のミュージアムフローリィ(石川/志賀)
 - 板橋熱帯植物館/熱帯植物温室(東京/板橋)
 - 青山学院大学青山キャンパス(東京/渋谷)
 - 國學院大学渋谷キャンパス(東京/渋谷)
 - 豊島区立仰高小学校/ピオトープ(東京/豊島)
- 都市緑化
 - 丸ビル(東京/千代田)
 - プロテ横浜高島台(神奈川/横浜)
 - 品川インターシティ(東京/品川)
 - 二子玉川ライズII-a 街区(東京/世田谷)
- 公共緑化
 - 旧浜離宮庭園(東京/中央)
 - シンボルプロムナード公園(東京/江東)
- 日本庭園
 - 昭和記念公園/日本庭園(東京/立川)
 - 鎌倉・長谷観音/山門周辺庭園(神奈川/鎌倉)
- 海外
 - ドイツ「恵光」日本文化センター/日本庭園(デュッセルドルフ/ドイツ)
 - 「心の庭」/日本庭園(ラ・セレナ/チリ)
 - 英国王立キューガーデン勅使門周辺日本庭園(ロンドン/イギリス)



二子玉川ライズII-a 街区



豊島区立仰高小学校



筑波実験植物園



アクアマリンふくしま

箱根植木株式会社

日本の原風景を蘇らせる環境再生緑化システム

Refugia®

Refugia [レフュジア]
氷河期など、広範囲にわたって生物種が絶滅する環境下で局所的に種が生き残った場所。待避地。
出典：デジタル大辞泉

生物多様性とは？

生物多様性は優れた生態系維持システムです。自然の中には、大きく変化する環境に対応するため、様々な能力を持った多くの生き物が存在しています。環境の変化に合わせて主役となる生き物が交代していくことによって、40億年を超えて持続するシステムを作り上げています。生物多様性をはじめとした自然が持つ優れたたくみを取り入れたのが環境再生緑化システム「レフュジア」です。

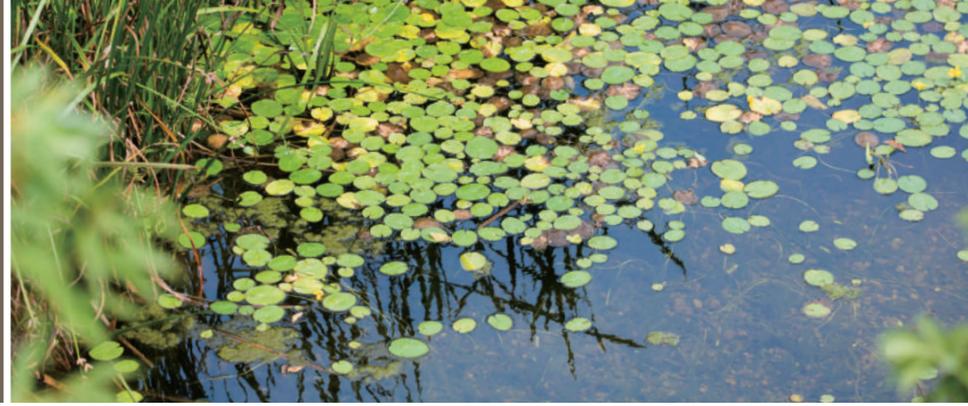


箱根植木株式会社 <http://www.hakone-ueki.com/>

〒168-0074 東京都杉並区上高井戸 3-5-15 Tel: 03-3303-2215 Fax: 03-3303-3187



環境の再生から 価値を創出する ワンストップ ソリューション



「壊し・造る」から「もどし・継ぐ」へ。

私たち箱根植木が提案する「Refugia / レフュジア」は、ランドスケープや開発における生物多様性の課題をワンストップで実現する事業ブランドです。昨今、地域自然環境の保全是、行政や近隣協定の中で実施が求められる事例が増えています。その際、通常はさまざまな工程を分業で行うのに対し、私たちは、地域環境の調査、種子の採取、苗の育成はもとより、計画、施工、メンテナンス、さらに環境教育など関連イベントの開催まで一貫して行います。高い専門知識を有する幅広いスタッフが、ワンストップ・ソリューションならではの利便性と、高水準のサービス、そして安定した環境保全をご提供します。地域の自然遺産を未来へと継承することで、地域の人々に愛され続け、時を経るほどに豊かになる環境を創出すること。それが、私たちの願いです。



※1 植物の地域性の定義については「生物多様性保全のための国土区分試案」を最低限の条件とし、その都度個別に定義するものとします。
 ※2 一般社団法人生物多様性保全協会によるトレーサビリティの第三者認定が可能です。
 ※3 地域植生ユニットに混植する植物は植生タイプにより異なります。

安心の一貫体制で、計画地・施設の独自性や持続性の向上を実現。

調査・計画

文献調査・実地調査に基づき、緑地計画・設計協力を行います。

計画地周辺の植生・植物相・動物相・歴史・文化などについて綿密に調査。その結果に基づき、緑地計画を行います^{※1}。同じ地域の在来種は長期にわたって共存しているため、特定の植物が他を被圧しにくい特徴を持ちます。さらに、光・水・土壌などの環境圧を考慮して計画されるので、安定した緑化が可能です。また、植物の種構成や植栽基盤に関する設計協力も行います。



育成・供給

計画地周辺から植物を採取し育成します。

1年目に、種子や挿し木などの採取を行います。種子採取は次世代への影響に配慮し、利用可能な種子の20%以下に留めます。2年目には、採取した種子や挿し木をもとに苗を育成。採取地の位置情報を記録し、採取地・植物種ごとに生産ラインの管理を行い、トレーサビリティを確保します。また、埋土種子を混合させることで、より自然で継続性の高い緑化が可能です。



施工

豊富なノウハウを活かし、計画地の環境に合わせて施工します。

施工地の光・水・土壌などの環境条件を十分に把握し、それに対応した植物を配置します。地域植生ユニットは植栽基盤上に設置し、地域性種苗は通常のポットと同様に植え付けます。その土地本来の植生を活かし、地域固有の環境を保全することで自然の力を引き出します。目指すのは、時を経るほどに、より豊かになる自然環境の創出です。



管理・運営

自然の作用を利用した緑地管理、イベントの開催も行います。

植栽地の風・光・種間競争など、自然の作用を利用した植栽管理を実施。風による成長の抑制、植物の成長がもたらす被陰や落ち葉の分解など自然の力を可能な限り取り入れ、通常よりも維持管理費を削減します。また、自然環境を学ぶための環境教育、観察会等のイベントも実施。地域とのつながりが生まれ、コミュニティの拠点として活用が可能となります。



トレーサビリティが確保^{※2}された Refugia の緑化材料。

■地域性種苗
トレーサビリティを確保した
地域固有の植栽材料
ポットには埋土種子を混合



■地域植生ユニット
地域性種苗 5～15種
(40株/m²)を
混植した植生ユニット^{※3}
ユニットには埋土種子を混合

